

「いくならなは。」リニューアル記念セレモニー竹下復興大臣挨拶  
(平成27年9月19日(土)於)福島県檜葉町)

皆さん、おはようございます。

すばらしい天気にもまれて、「いくならなは。」リニューアル記念のセレモニーがこのように開催をされますことを心からお喜びを申し上げる次第でございます。

お喜びを申し上げるだけではなくて、一緒に喜ぼうと、あの厳しい災害から4年半、ここまでしっかりと立ち直ってきた檜葉の皆さん方の御努力、松本町長を初め、また町議会の議長、議員の皆さん方、町民の皆さん方が本当に歯を食いしばって今日まで復興に向けて、汗をかいてこられた、その一つの記念碑と言いますか、一つのマイルストーンが今日のリニューアルオープンだというふうに感じておるところでございます。

4年半、一言で言いますが、長かったろうと思います。いろんな思いが胸に去来することと思います。

今回の東日本の大震災そして原子力発電所の事故に伴うこの災害というのは、人類史上に残念ながら残る大きな大きな災害であると同時に、地元の皆さん方にとって、もちろん忘れることはできませんが、しっかりと後世に引き継いでいかなければならない課題でもあると、このように感じておるところでございます。

9月5日に避難指示が解除になり、そして今日、リニューアルオープンのセレモニーをすることができると、一歩また一歩ではありますが、帰りやすい環境、ふるさとを取り戻しやすい環境整備というものが進んでいることを実感すると同時に、更に加速化していかなきゃならんと、そのことが我々に課せられた課題であるということも改めて痛感をいたしておるところでございます。

ふるさとを取り戻すと口で言うのは簡単ですが、それがどんなに難しいことか、厳しいことか、檜葉の皆さん方は本当によくお分かりをいただけていると思います。

今、我々復興庁と言いますか、東日本大震災からの復興に向けて様々な取組をまだまだ進めていかなければなりません。復興であります。

しかしその一方で、もう一つ我々が今、目指しておりますのは、「田舎が元気を取り戻すんだ」と、「田舎に活力が出てくるんだ」と、そういう日本を作っていこうと、その意味で新たな一歩を踏み出したこの檜葉は「復興と地方創生」、「元気を取り戻す」、その2つに向けて歩みをスタートをしたと、そのように私は感じております。

懸命のお手伝いをしながら、皆さん方の思い、ふるさとに帰りたいと思っていらっしゃる方には、温かい家庭と温かいふるさとをしっかりと取り戻してもらおう、そしてそこには活気があると、そういう町をもう一度作り上げていかなければならないと、このように考えておるところでございます。

今日の一つの記念日、リニューアルオープンのセレモニーをまた一つのきっかけとして、未来に向かって、一歩また一歩と歩みを進めていただきますことを心から祈念を申し上げ、我々懸命にお手伝いをさせていただくことを改めてお誓いを申し上げまして、お祝いの御挨拶とさせていただきます。

おめでとうございます。

(以 上)